



最先端の治療を、いち早くお届けするために。



横浜市立大学附属病院
次世代臨床研究センター

YCU Center for Novel and Exploratory Clinical Trials



横浜臨床研究ネットワーク整備事業

横浜臨床研究ネットワーク整備事業は、市民・神奈川県民の先進医療の受診機会の増加、医療産業の活性化を目的とし、治験をはじめとした臨床研究を附属病院が中心となって主導的な役割を果たすため、横浜市からの補助金によって運営しています。

また、この事業を発展させるため、附属病院は医療法における「臨床研究中核病院」の承認を目指しています。

これらの取組により、地域医療機関の拠点となり、治療法の開発を推進することにより、市民・神奈川県民の皆様に最先端の治療をお届けできるよう、事業を推進していきます。

1.基礎から臨床への橋渡し 2.ヒトへの臨床応用 3.最先端治療の臨床導入

基礎研究

非臨床研究
(動物実験等)

第I相

第II相

第III相

市民・県民に研究成果を
最大最速で還元
医療産業の活性化

神奈川県立がんセンター (415床)

横浜市立市民病院 (650床)

神奈川県立こども医療センター (430床)

横浜市立大学附属市民総合医療センター (726床)

横浜市立みなと赤十字病院 (634床)

国立病院機構横浜医療センター (510床)

済生会横浜市南部病院 (500床)

藤沢市民病院 (536床)

神奈川県立循環器・呼吸器病センター (239床)

横浜市立大学附属病院 (674床)

横浜臨床研究ネットワーク協定病院

(2020年8月現在)

横須賀市立うわまち病院 (417床)

国家公務員共済組合連合会
横須賀共済病院 (735床)

横須賀市立市民病院 (482床)

次世代臨床研究センターの支援内容について

当センターでは、データマネジメント、プロジェクトマネジメント、統計・解析、教育、研修、CRC支援業務といった臨床研究における様々な支援を行っており、学内や他の医療機関だけでなく企業などからも依頼を受け付けております。

支援依頼のご相談は下記問い合わせ先までお願いします。

《次世代臨床研究センター事務局》

外線:045-370-7994

Mail:nextjim1@yokohama-cu.ac.jp

<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~ynext/support/request/>

厚生労働大臣認定「臨床研究審査委員会」について

■認定日: 平成2018年3月30日
■認定番号: CRB3180007
■学外の依頼者の審査手数料(税抜き)
新規申請 208,000円
変更申請 50,000円

審査委員会のご相談は下記問い合わせ先までお願いします。

《臨床研究審査委員会事務局》

電話:045-370-7627

Mail:ycu_crb@yokohama-cu.ac.jp

https://www.yokohama-cu.ac.jp/amedrc/ethics/ethical/ycu_crb.html

ご挨拶

病気に苦しむ市民や国民の皆様に「次の一手」となる治療法を開発することは我々の願いです。

横浜市立大学附属2病院と医学部、先端医科学研究センターは、再生医療など先進的な医療の実現に向け、基礎研究から臨床応用に向けた橋渡し研究（トランスレーショナルリサーチ）を行う体制を構築するとともに、横浜市の支援の下、平成27年4月、横浜市立大学附属病院下に次世代臨床研究センター（Y-NEXT）を設立し、臨床研究支援体制の充実を図ってきました。

Y-NEXTは、最先端の治療をいち早く患者さんに届けることを目標とした臨床研究を推進するための専門家集団で、その活動は多岐にわたり、国への承認申請や保険収載などの“出口”を見据えた新しい治療法や診断法の開発研究の立案、その適正実施の支援・監督に加え、臨床研究を志す全ての人に対して教育研修の機会を提供しています。

現在、横浜市立大学附属2病院・医学部の各教室・診療科に所属する医師は、附属病院の臨床研究中核病院への早期承認に向けて一丸となって臨床研究・治験に取り組んでいます。この活動を横浜市立大学附属病院を中心とした横浜臨床研究ネットワークに所属する医療機関にも波及させ、横浜市及び神奈川県における医療機関等の臨床研究・治験の活性化を図るとともに、医療機関同士の有機的な連携を構築し、質の高い先進的な地域医療の提供を図っていきます。



センター長
寺内康夫 教授

組織体制

次世代臨床研究センター

横浜市立大学附属病院 次世代臨床研究センター

センター長：寺内康夫

副センター長：菊田貞雄

副センター長：矢野裕一朗

副センター長：野崎昭人

横浜市立大学及び地域医療機関における臨床研究の推進・活性化を目的とした支援組織

研究開発支援室

室長：瀬貴孝太郎

臨床研究（臨床試験及び医師主導治験）のプロジェクト管理、研究デザイン支援及び相談業務など

臨床試験データ管理室

室長：瀬貴孝太郎

臨床研究（臨床試験及び医師主導治験）のデータ管理、中央モニタリング及び登録センター業務など

統計解析室

室長：山本紘司

臨床研究（臨床試験及び医師主導治験）のデザイン立案、症例数設計、解析計画書作成及び統計解析など

教育研修室

室長：小林雄祐

臨床研究（臨床試験及び医師主導治験）の教育・研修の実施、プロトコルの作成支援及び臨床研究事務局業務など

臨床試験管理室

室長：柳田洋一

臨床研究（臨床試験及び治験）のCRC業務、治験・IRB事務局業務など

事務室

室長：中川淳孝

臨床研究ネットワーク事務局、医学系倫理委員会事務局及び利益相反管理業務など

研究開発支援室



室長
瀬貫孝太郎

臨床研究の遂行には、被験者はもちろんのこと、参加施設の医師や事務部門など、極めて多数の人が関わるため、個々の臨床研究を「ひとつのプロジェクト」として運営・進捗管理していくという視点が必要になります。

研究開発支援室は、次世代臨床研究センターの各部署(臨床試験データ管理室/統計解析室/CRC/監査/管理部門等)が一体となった支援活動を行うための調整役として、プロジェクトマネジメントを中心に、臨床試験の準備段階からまとめまで(試験立案から出口戦略まで)、臨床試験のプロジェクトに係わる様々な側面からの支援を実施いたします。

今後は、臨床研究に精通した医療専門職や規制当局経験者の立場から、法令順守のために助言するだけでなく、実用化に向けた承認申請資料作成において、開発期間を短縮、規制当局と研究者・開発者との相互理解の促進に努めるよう積極的な支援を展開していきます。



臨床試験データ管理室

室長
瀬貫孝太郎

臨床研究の有効性・有害事象のデータの「品質」を確保することは、研究結果の信頼性の確保および被験者の安全の確保のために必要です。次世代臨床研究センターの臨床試験データ管理室は、臨床研究のデザインに合わせたデータ収集方法(紙媒体でのデータ収集では臨床試験データマネジメントシステム(CDMS)の利用、電子媒体でのデータ収集ではEDC(Electronic Data Capture)を利用し、監査証跡をはじめとするICH-GCP、GCPおよび臨床研究法を念頭においていたデータ管理体制を提供しています。

さらに中央モニタリングやSampling SDVを組み合わせたリスクベース・モニタリング方法論のアカデミア試験における普及を目指します。

臨床現場のスタッフとは異なる第三者的な専門のスタッフが臨床研究データを扱うことで、臨床研究データの質がより向上し、導かれる結果の信頼性をより高めております。

臨床研究の質の向上、エビデンス発信に役に立てるよう臨床研究を支援いたします。

データマネジメント	登録センター
<ul style="list-style-type: none">・プロトコルレビュー・紙媒体:症例報告書(CRF)の作成、電子媒体:eCRF画面設計・データマネジメント計画書作成・紙媒体:CDMSのデザインと構築、電子媒体:EDCシステムの構築	<ul style="list-style-type: none">・目視チェック、ロジカルチェック、データ入力・ケアリ発行、担当医への照会・データ修正・固定・症例検討会対応・中央モニタリングレポート作成・データマネジメント報告書作成

統計解析室



室長
山本紘司 准教授

臨床試験は通常、計画立案から始まり、詳細なプロトコル作成を経て試験を実施し、データ収集・解析、報告書作成、さらに論文作成というプロセスを経ます。そのため、最終的なゴールを見据えてプロトコルを作成していくことが重要であり、その際には試験の計画段階からの生物統計家の関与が必須です。

統計解析室では、簡単な統計相談から、試験デザイン作成、症例数設計、解析計画策定、データ解析、報告書および論文作成の支援を行っており、とくに重要な試験計画立案の初期段階ではコンセプトレビューという形で関与いたします。

次世代臨床研究センターの統計解析室にはアカデミア随一の陣容の生物統計家が所属しており、一般社団法人日本計量生物学会の試験統計家認定制度による、責任試験統計家と実務試験統計家を擁しています。

支援内容
<ul style="list-style-type: none">・研究デザインの立案・症例数設計・プロトコル(統計関連部分)作成・統計解析計画書の作成

教育研修室



室長
小林雄祐 助教

臨床研究は研究計画立案、データ収集、統計解析、結果の解釈、論文発表という流れで行われます。そして、介入研究であっても観察研究であっても、最初の研究計画立案部分でその研究の成否の大半が決まります。研究計画立案の為には疫学（研究デザイン学）や統計学の知識に加えて、倫理指針や臨床研究法、治験に関する様々な知識が必要になります。ARO (academic research organization) では実際の臨床研究支援だけではなく、これら様々な知識や技術に関する教育も行っております。

教育研修室では臨床研究の実施者および研究をサポートする方々を対象として講習会やセミナーを企画・開催し、臨床研究の理論・知識・方法・実践スキルを身につけていただいております。横浜市立大学内のみならず、地域全体における臨床研究のさらなる浸透・推進を目指します。また、研究者を対象に臨床研究に関するコンサルテーション業務を行っております。特に、介入研究（臨床研究法上の臨床研究と指針上の介入研究の両方を指しています）においては研究コンセプトの段階からのコンサルトを通して、科学性を確保した質の高い臨床研究の立案、プロトコル作成支援及び疫学教育を行っております。

コンセプトシートに基づいた
介入研究コンサルテーション
(科学性の確保)

▶ プロトコル作成支援

▶ 研究申請

臨床試験管理室



室長
柳田洋一

臨床試験は、臨床研究法、あるいは、「GCP (医薬品の臨床試験の実施の基準)」や「人を対象とした医学系研究の倫理指針」に従って、倫理的かつ科学的に実施することが求められます。

臨床試験管理室は、治験が円滑かつ適正に実施できるように医師や被験者をサポートする臨床研究コーディネーター（Clinical Research Coordinator）業務、治験事務局等の重要な役割を担っています。

また、市販後の薬剤・医療機器、あるいは手術手技等にかかるUnmet Medical Needsを埋めていく自主臨床試験のCRC業務も積極的に展開していく予定です。

大学全体の「臨床試験」の質の向上を通じて、横浜市大発の新しい治療の提供に貢献することを目指します。

IRB 審査件数の推移

（新規のみ）	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
企業治験	33	28	23	25
医師主導治験（主：YCU）	0	0	2	1
医師主導治験（主：他院）	0	1	2	2
治験の合計	33	29	27	28
製造販売後調査等	65	72	44	45
他院からの審査依頼	0	1	2	2

事務室



室長
中川淳孝

臨床研究推進担当では、次世代臨床研究センター全体の運営を統括し、臨床研究中核病院の承認を目指した体制の整備を進めています。また、他機関からの研究支援の依頼窓口を担当するとともに横浜臨床研究ネットワーク協定病院の臨床研究、治験を推進するため様々な支援活動を展開しています。

また、倫理担当では、厚生労働省から認定された臨床研究審査委員会をはじめ各医学系倫理指針に基づく倫理委員会事務局や臨床研究利益相反委員会事務局として、横浜市立大学及び他機関から依頼された臨床研究等の倫理審査業務等を行っています。

医学系倫理委員会の審査件数

●臨床研究審査委員会（件数）

	新規申請(外部機関)	変更申請(外部機関)	合計(外部機関)
2018年度	30 (3) *	16 (1)	46 (4)
2019年度	12 (2)	41 (5)	53 (7)
合計	42 (5)	57 (6)	99 (11)

*法施行前から実施している特定臨床研究の再審査を含む。

●人を対象とする医学系研究倫理委員会（件数）

	新規申請	変更申請	合計
2018年度	458	402	860
2019年度	386	388	774
合計	844	790	1,634

●ヒトゲノム・遺伝子研究等倫理委員会（件数）

	新規申請	変更申請	合計
2018年度	57	97	154
2019年度	73	83	156
合計	130	180	310



公立大学法人 横浜市立大学附属病院
次世代臨床研究センター

〒236-0004 横浜市金沢区福浦1-1-1
横浜金沢ハイテクセンター・テクノコア 5階
Tel: 045-370-7933 Fax: 045-370-7943
E-mail: ynext@yokohama-cu.ac.jp
URL: www-user.yokohama-cu.ac.jp/~ynext/



[アクセス]

1. JR京浜東北根岸線「新杉田駅」、または京浜急行線「金沢八景駅」で下車
2. シーサイドラインに乗り換え、「産業振興センター」駅②出口より徒歩3分